

遠藤周作文学館収蔵資料検索 の愛称を募集します

遠藤周作文学館では、インターネット上で収蔵資料を検索し、資料の画像を閲覧する「収蔵資料検索」の運用に向けての整備を行っています。公開する資料は、整備できたものから順次登録を進めていく予定です。

本検索システムを長く愛着をもってご利用いただきたいため、システムの「愛称」を募集します。

遠藤周作文学館収蔵資料検索の概要

※R8.9現在の予定

①検索用サイト

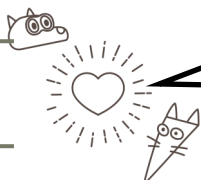
オープンアクセスでどなたでも利用できます。収蔵資料の詳細データや資料の一部画像を見ることができます。

②閲覧用サイト

①で公開されていない資料の画像を閲覧することができ、文学館から提供される限定URLからアクセスし利用します（要申請）。

募集

遠藤周作文学館収蔵資料検索の愛称



親しみやすく、覚えやすく、キャッチー

締切

令和8年10月31日（土）必着

結果

決定した愛称は文学館ホームページに掲載します。採用された方にはメールで連絡し、粗品をプレゼントします。

提出

- ①システムの愛称（1人3つまで）
- ②名づけ理由（80字以内）
- ③氏名（フリガナ）
- ④学校名・所属・学年（学生の場合）
- ⑤連絡先（電話番号・メールアドレス）

①～⑤を期日までにWord文書の形式で文学館へ提出してください。

提出先【endoshusaku@city.nagasaki.lg.jp】

遠藤周作（1923～1996）



東京生まれ。12歳でカトリックの洗礼を受ける。慶応義塾大学仏文科卒。フランス留学を経て、1955年「白い人」で芥川賞を受賞。一貫して日本の精神風土とキリスト教の問題を追究し、『海と毒薬』『沈黙』『死海のほとり』『侍』『深い河』といった小説を発表する一方、自らを「狐狸庵山人」と称し、「ぐうたらシリーズ」「狐狸庵もの」といったユーモア作品、歴史小説も多数ある。素人劇団や素人囲碁の会を主宰するなど、多方面で活動した。2000年5月、『沈黙』の舞台である長崎市外海に遠藤周作文学館が開館した。

